

第125回 光応用・視覚技術委員会議事録案

平成22年7月30日

光応用・視覚技術委員会

委員長 亀井宏行

I 日時：平成22年4月19日（金）15：00～17：00

II 場所：日本交通協会第1会議室

III 出席者：亀井委員長、岡田、高橋、山本、各委員、君島、木下各幹事

IV 配布資料

No.125-01 第124回光応用・視覚技術委員会議事録案

No.125-02 第82回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録

No.125-03 委員交替

No.125-04 第7回リソグラフィ極限技術調査専門委員会議事録

No.125-05 研究会活動補助金会計報告

No.125-06 光応用・視覚研究会

No.125-07 光応用・視覚委員会平成21、22年度活動計画表

No.125-08 光応用・視覚技術委員会名簿

V 議事

1. 前回議事録確認

2. A部門研究調査運営委員会報告

亀井委員長から配布資料 No.125-02 に基づき、第82回 A部門研究調査運営委員会の報告がされた。

1) 学術発表会における発表用資料の持込について

企業からの発表でパワーポイントが使えないことがある。紙媒体を投影する方法を利用したいという要望がある。

2) 技術委員会の再編について

部門によっては技術委員会を評価している場合があり、評価項目を他部門に知らせる予定がある。

3) 100周年記念基金の事業目的について

文部科学省の指導により、公益性のある事業以外の事業を廃止することになった。

4) 技術委員会統廃合に関する評価指針策定について

D部門ではソサエティの活動を研究会開催数、産業応用フォーラム開催数、技術報告発刊数などで数値化して評価している。新しい技術委員会の設置も進めている。

5) 優秀論文発表賞の選定期間について

奨学金受給申請のために優秀論文発表賞の受賞者選定を1月中に行ってほしいという要望があるので、1月中旬までに各部門役員会で受賞者を決定し、研究経営委員会へ報告する前に各部門担当者から部門長名で受賞者に電子メールで通知することになった。

- 6) 研究会資料の年間購読の問題について
年間購読のため、年途中での研究分野の独立、統廃合による再編を想定していなかった。年途中の解約、編成替えの周知、独立した部門の資料の無償配布、CD-R 配布案などを審議している。各部門にはこの問題と管理システム改修経費についての意見を聞かせられたい。
 - 7) 「基礎・材料・共通部門 研究会論文賞」(仮称) の提案について
A賞、論文賞と異なり、35歳以下が対象。部門長名で部門大会において表彰する。賞の制定を進めることになり、今年開催分からの実施が見込まれる。
 - 8) A部門論文発表A賞割り当てについて
当委員会には21年度に1件の割り当てがあったが、受賞者がなく、次年度繰越しが認められた。割り当て数を決める投稿論文数には35歳以下の人だけを集計する、A賞は学会員以外でも受賞できるようにという要望があった。
 - 9) 公開シンポジウム開催について
4月2日(金)に東京電力電気の史料館で「電気の不思議を体感しよう」というタイトルで公開シンポジウムを開催した。
 - 10) 技術調査専門委員会の解散について
電磁波・情報セキュリティ技術調査専門委員会の解散報告が申請され、承認された。報告書として単行本を発行する。
 - 11) 21年度・22年度研究会開催計画について
21、22年度研究会開催の実績・予定を確認した。当委員会ではリソグラフィ関連の研究会計画を21年3月から22年9月に変更を報告した。
 - 12) シンポジウムの技術委員会共催について
バイオエレクトロニクスシンポジウムをパルス電磁エネルギー技術委員会と共催とすることが申請され、承認された。
3. 委員の交替について、亀井委員長から No.125-03 に基づき報告された。
- 1) 1号委員(生体医用応用)に清水孝一委員(北大)から佐藤俊一委員(防衛医大)に交替することが決定した。
 - 2) 1号委員(視覚心理)に2名の候補者がある。視覚関係の調査専門委員会を設置したい。
 - 3) 編修委員には高橋信一委員から篠田之孝委員に交替(2年間)する。
 - 4) 木下幹事は1年間留任する。
4. 調査専門委員会の活動報告
高橋委員より配布資料 No.125-04 に基づき、第7回リソグラフィ極限技術調査専門委員会の議事と講演(2件)の内容が報告された。
5. 研究会活動補助金会計報告
木下幹事から配布資料 No.125-05 に基づき、21年度当委員会の研究会活動補助金会計が

報告された。

6. 光応用・視覚研究会について

配布資料 No.125-06 に基づき、1月27日に大阪産業大学梅田サテライトキャンパスで光応用・視覚研究会が開催された旨報告された。

7. 平成21、22年度の活動計画

配布資料 No.125-07 に基づき実績・予定が各委員会から報告された。

8. 編修委員会より報告（高橋委員）

- 1) 部門誌（論文誌）が23年5月号から電子ジャーナル化し（論文、資料、巻頭言など）、冊子体は廃止になる。別刷りは残る。ニュースレターが適宜学会本誌に添付される。
- 2) 光源の特集論文が23年4月号から5月号に変更になった。開告記事は22年6月号、論文締め切りは同7月30日。エディターの神藤委員から関係者に周知することになっている。

9. その他（亀井委員長）

1) 技術報告の提出について

メディアデバイス・視覚システム調査専門委員会（山羽委員）は原稿を手直しして提出することになった（高橋委員）。新しい光源とモデリング・計測調査専門委員会には問い合わせる（亀井委員長）。

2) 新委員について

リソグラフィ極限技術調査専門委員会に1号委員候補者を依頼した。次世代光源調査専門委員会、赤外線・テラヘルツ波将来技術次世代光源調査専門委員会にも依頼する。

10. 次回委員会について

日時：平成22年7月30日（月）15：00～17：00

場所：日本交通協会第1会議室

記録 木下